

タジキスタン情勢

——貨物列車足止め問題と拘置所からの脱走事件を巡って——

稲垣 文昭

1. はじめに

周知の通り、タジキスタン内戦の停戦状況の監視等を任務とした国連タジキスタン監視団 (UNMOT) がその活動を終了したのは内戦勃発から 8 年が経った 2000 年 5 月 14 日であった。その UNMOT の撤退から 10 年、混迷を極めるアフガニスタンの情勢の影響はタジキスタンにとって無視し得ないものである。また、隣国ウズベキスタンとの二国間関係は決して良好と呼べず、更に 2008 年には海外労働者からの送金対 GDP 比 49% を占めるなどタジキスタン経済は未だ脆弱であり、その戦後復興が一切の問題なく進展しているわけではない⁽¹⁾。にもかかわらず、過去 10 年においてタジキスタンが混乱状態に再度陥らなかったことは評価すべきことと言えよう。

さて、そのタジキスタンの 2010 年の動向を振り返ると、国際的な耳目を集めた政治的事件として、ウズベキスタンとの間での貨物列車足止め問題と国家保安委員会拘置所からの脱走事件が挙げられよう。本稿では、両事件を通して今日のタジキスタンが抱える諸問題について簡単に考察してみる。

2. 貨物列車の足止めと水資源問題

2010 年 3 月 17 日、トロピン・タジク鉄道貨物部副部長は、ウズベキスタンにおいて、同社の貨物車両 500 両が足止めされていると発表した⁽²⁾。積み荷にはタジク・アルミニウム (TALCO) 向けの資材やログン (Rogun) 水力発電所建設の為の建設機器が含まれており、

⁽¹⁾ *Migrant Remittances to Tajikistan: The Potential for Savings, Economic Investment and Existing Financial Products to Attract Remittances*, ILO Subregional Office for Eastern Europe and Central Asia 2010, http://www.ilo.org/public/english/region/eurpro/moscow/info/publ/tajik_migr_remit_en.pdf, 閲覧日：2011 年 1 月 10 日。

⁽²⁾ Около 500 грузовых вагонов ТЖД вновь задержаны на территории Узбекистана- ТЖД // Asia-Plus, 17. 03. 2010. <http://news.tj/ru/news/okolo-500-gruzovykh-vagonov-tzhd-vnov-zaderzhany-na-territorii-uzbekistana-tzhd>, 閲覧日：2011 年 2 月 8 日。

アキロフ・タジキスタン首相は税関書類の不備に伴う手続き上のものとするウズベキスタンの主張は単なる口実であり、エネルギー及び水問題と関連した報復処置としてウズベキスタンを批判した⁽³⁾。

繰り返しになるがタジキスタンとウズベキスタンの関係は決して良好とは言えない。その一因に水資源の配分を巡っての対立関係がある。アム川・シル川双方において上流国（タジキスタン）と下流国（ウズベキスタン）の関係にある両国は、他の国際河川を巡る水資源対立の例にもれず配分量・時期を巡り対立関係にある。

特に近年はログン水力発電所建設を巡って両国間の対立が先鋭化している。ログン水力発電所とは、アム川支流であるヴァフシ（Vakhsh）川流域に1976年に建設が開始されたが、ソ連崩壊とタジキスタン内戦により凍結されていた水力発電所である。2008年8月にタジキスタンはロシアと同水力発電所建設協力を合意したが⁽⁴⁾、地震による決壊や環境被害等を理由にしたウズベキスタンの強硬な反対を受けて、ロシアは2009年1月にその合意を反古にした⁽⁵⁾。

そこで、タジキスタン政府は2009年11月に単独でのログン水力発電所建設を決定したが⁽⁶⁾、この決定に反発するウズベキスタンは、中央アジア統一電力網から離脱した（2009年12月1日）⁽⁷⁾。ソ連時代に作られた中央アジア統一電力網は、カザフスタンの一部とクルグズ、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタンを網羅する電力供給システムである。同電力網経由でウズベキスタン、トルクメニスタンから電力供給を受けていたタジキスタンにとって、ウズベキスタンの離脱は電力供給を不安定化させるものであった⁽⁸⁾。

このような背景から、アキロフ首相の発言にある通り（事実が税関書類の不備に伴う手続き上のものであったとしても）タジキスタンはウズベキスタンによる貨物列車足止めをログン水力発電所建設への報復処置と捉えたのである。この貨物列車足止め問題は長期化し、6

⁽³⁾ МИД Таджикистана направил узбекским властям ноту в связи с задержкой железнодорожных грузов // Asia-Plus, 24. 03. 2010, <http://news.tj/ru/news/mid-tadzhikistana-napravil-uzbekskim-vlastyam-notu-v-svyazi-s-zaderzhkoi-zheleznodorozhnykh-gru>, 閲覧日：2011年2月8日。

⁽⁴⁾ ロシアとタジキスタン間の同合意は2回目である。2004年にもタジキスタン政府はロシアのアルミニウム会社 RusAL と同水力発電所建設について合意した。しかし、2007年8月にタジキスタン政府が同水力発電所の権益を49%から60%引き上げることを求め契約を破棄した。

⁽⁵⁾ もう一方の上流域国であるクルグズは2009年2月にロシア政府からカンバラタ（Kambarata）水力発電所建設のための資金援助について合意している。

⁽⁶⁾ 建設資金は、「株式会社ログン水力発電所」株式の国民への半強制的な売却で賄う計画である。

⁽⁷⁾ ウズベキスタンの離脱は、自国内で電力供給を完結するインフラが整備された為でもある。

⁽⁸⁾ なお、ウズベキスタンよりも早く2003年にはトルクメニスタンが同電力網から離脱済みであり、現在はカザフスタン、クルグズ、タジキスタンの3カ国が統一電力網を形成している。

月にはサングトゥーダ (Sangtuda) 第2水力発電所建設を請け負っているイランがウズベキスタンへ圧力をかけたが⁽⁹⁾問題は解決せず、タジキスタン政府は10月にOSCEに対し仲裁を申請した⁽¹⁰⁾。

なお、2011年1月19日現在において、同問題は終息したが荷物の紛失や旅客列車について制限が残っている一方で、ウズベク鉄道はタジク鉄道に対し約450万ドルの負債を抱えているということである(なお、タジク鉄道は約2000万ドルの損失を被った)⁽¹¹⁾。また、両国間の対立の火種となっているログン水力発電所建設の可否については、現在、世界銀行によって派遣されたドイツとパキスタンの専門家によるフィージビリティ・スタディが実施されており、結果は2011年内に発表予定である。

水資源は両国間の中心的な係争問題であるが、根本的な原因ではない。対立的な2カ国間関係は、内戦期にウズベキスタンが北部勢力を支援したこと、そして1998年11月にソグド州で起きたフダイベルディエフ大佐による反乱と1999年から活発化したナマンガニ率いるウズベキスタン・イスラム運動(IMU)のゲリラ活動問題⁽¹²⁾等を起因とする両国政府間の相互不信によるものである。貨物列車足止め問題はその相互不信が招いた結果であるとともに、その相互不信を更に強めた可能性が高い。

3. 脱走事件と非合法集団の影響

2009年7月にタジキスタン中部ダヴィルダラにて元タジキスタン反政府連合(UTO)野戦司令官で、内戦後タジキスタン非常事態省将校を務めたネマト・アジゾフ率いる武装集団による行政機関襲撃事件が発生した。同事件ではネマト・アジゾフとやはり元UTO野戦司令官の一人であるジョエフ元非常事態相(1999-2006)が死亡した。ジョエフは、ネマト・アジゾフに協力を要請されていたが政府軍に捕らえられた後、ネマト・アジゾフの投降を説得

⁽⁹⁾ “Uzbekistan holds up Tajik freight wagons despite warning from Iran,” *BBC Monitoring Global Newslines—Central Asia Political*, Reading, 23 June 2010. イランは、タジキスタン行きの貨物列車の早期通過を許可しない場合、同国経由で輸出されているウズベキスタン産の綿花の輸送を停止するとウズベキスタンに警告した。

⁽¹⁰⁾ PC.DEL/961/10. *Statement by the Head of Delegation of Tajikistan to the OSCE Ambassador Nuriddin Shamsov at № 831th Plenary Permanent Council Meeting (Vienna, 12 October 2010)*, http://www.tajikembassy.org/images/pc_12.10.10_on_railroad_blockade_of_Tajikistan_831pc.pdf, 閲覧日：2010年12月26日。

⁽¹¹⁾ 筆者によるタジキスタン外務省への確認(2011年1月19日)。なお、旅客列車の問題はウズベキスタンがタジキスタン領内を通過するアンディジャン＝タシケント、アンディジャン＝ブハラ間の鉄道を運行停止にしている結果とのことである。

⁽¹²⁾ タジキスタン政府はウズベキスタン政府がフダイベルディエフによる反乱を支援したと見なし、ウズベキスタン政府はタジキスタン政府がナマンガニ率いるIMUのゲリラ活動を容認していると見なした。フダイベルディエフはウズベキスタンに逃亡し、ナマンガニはUTOに所属していた。だが、前者の反乱と後者のゲリラ活動の背後について真相は不明であり、これらの問題も両国政府間の相互不信が原因ともいえる。

中に銃撃戦で死亡したと言われる⁽¹³⁾。

そしてこのネマト・アジゾフ派の襲撃事件から約一年後の2010年8月22日午前1～2時に、ドゥシャンベ近郊の国家保安委員会拘置所が襲撃され受刑囚25名が脱走した。脱走囚にはネマト・アジゾフの弟で元非常事態省所属の軍人ラフミッディン・アジゾフ、ジョエフの息子、IMUのメンバーが含まれていたと言われる。9月19日には、脱走囚を追跡中の国防軍が東部ラシト地区カマロブ峡谷で襲撃された。同襲撃は、UTO旧野戦司令官のアブドゥッコ・ラヒモフ（通称ムッコ・アブドゥッコ）とアロヴッディン・ダヴラトフ（通称：アリ・ベダキ）率いる武装勢力によるものであった。

他方、時を若干遡ること9月3日には北部ソグド州内務局組織犯罪取締部敷地内で爆発事件が発生し、タジキスタン当局はIMUによる犯行と発表していた。一連の事件に関して、10月20日にはカハロフ内相が、①国防軍を襲撃した武装団体のメンバー12名を殺害し、そのうち身元が判明した9名はロシア国籍の1名を含む外国人傭兵であったこと、②ムッコ・アブドゥッコがラシト地区に国際テロリスト・キャンプ建設を目論みアフガニスタンからタジキスタンに入ったこと、③過去2ヵ月間の一連の事件で、警官9名が殉職、約30名が負傷したこと、④過去9ヵ月間で、ヒズブ・タフリール、IMU、アルカーイダ等の非合法団体のメンバー18名を拘束したことを発表した⁽¹⁴⁾。

更には、脱走事件発生直後の8月25日から同国南部視察中であったラフモン大統領も、国外の複数のエージェントが宗教指導者と共に活動していると警告、国外のイスラム神学校に学ぶタジク人学生の帰国の必要性を訴え、さらには裁判にイスラム法を適用したことが内戦の一因となったとしてイスラム教過激主義の浸透への懸念を表明している⁽¹⁵⁾。また、2011年1月11日には、サリムゾダ検事総長が既に殲滅したアリ・ベダキ派が非合法集団であったと発表し、タジキスタン国内には地下過激組織ではなく、ヒズブ・タフリール、IMU、

⁽¹³⁾ “Tajik ex-opposition field commander surrenders after being surrounded,” *BBC Monitoring Global Newslines—Central Asia Political*, Reading, 12 July 2009. なお、ジョエフは非常事態相解任後、麻薬密売に手を染めたとされるが真相は不明である。

⁽¹⁴⁾ МВД сообщает подробности спецоперации в Раште // *Asia-Plus*, 20. 10. 2010. <http://asiaplus.tj/news/47/70490.html>, 閲覧日：2010年11月1日。МВД обезвредило шестнадцать организованных преступных группировок за 9 месяцев этого года // *Asia-Plus*, 20. 10. 2010. <http://news.tj/ru/news/mvd-soobshchaet-podrobnosti-spetsoperatsii-v-rashte>, 閲覧日：2011年1月22日。

⁽¹⁵⁾ “Foreign “agents” operating in Tajikistan – leader,” *BBC Monitoring Global Newslines—Central Asia Political*, Reading, 27 August 2010. “Tajik leader calls for vigilance to avoid repetition of civil war,” *BBC Monitoring Global Newslines—Central Asia Political*, Reading, 27 August 2010. その後、タジキスタンでは国外のイスラム神学校に留学するタジク人学生の呼び戻しが行われている。

タブリーギ・ジャマーアト等の非合法集団が存在すると発表した⁽¹⁶⁾。一連の発言からは、アフガニスタンからタジキスタンにアルカーイダやタリバンなどのイスラム過激派が浸透してきており、それらが旧 UTO 野戦司令官達を支援、活動を活発化させているという印象を受ける。他方、2010 年 2 月に実施された下院議会選挙（定数 63 議席）では、ラフモン大統領が党首を務める人民民主党（55 議席）を中心として与党系が 61 議席を獲得、野党は旧 UTO の中心的政党であったタジキスタン・イスラム復興党（IRP）の 2 議席のみであった。

以上から、旧 UTO 系の指導者が現政権に対し何らかの不满を持っていることは想像に難くない。しかし、一連の争乱を旧 UTO 対政府の対立軸に単純化することはできない。例えば、ラシト地区の実力者であるアフマドフ旧 UTO 野戦司令官（通称:ベルギー大佐）らはムッロ・アブドゥッロとアリ・ベダキー派の掃討作戦において政府に協力した。つまり、現政権に不満を持つ集団があり、国外の非合法組織と連携をして一連の武力活動を行ったが、各勢力間の協力は不十分で再度内戦に発展する程の規模ではないと言える。もともと、現政権の利権構造から外れる勢力が今後増えれば、資金を梃に非合法組織の介入が増加し、テロ行為等社会的な不安が増加する可能性が高い。

4. おわりに

貨物車両足止め問題と脱走事件のいずれも、単発的に起きた事件ではない。前者はウズベキスタンとの長年の確執が背景にあり、後者は、内戦から内戦終結後につくられたラフモン政権の歪みが生み出したものである。

もともと、貨物列車足止め問題は、両国間の相互不信を強めた可能性が高いが、他方でその問題解決の為の対話が相互信頼回復の為の足がかりになる可能性も否定できない。また、脱走事件をはじめとする旧 UTO 系軍閥の活動は、社会を不安定化させる一方でラフモン政権が対処すべき国内課題をあぶり出したとも言える。2010 年に起きた二つの事件は、ラフモン政権がこれまでの 10 年で作り上げてきた統治構造の矛盾と次の 10 年で解決すべき課題を示したといえよう。

（慶應義塾大学 SFC 研究所・上席所員（訪問））

⁽¹⁶⁾ В Таджикистане нет подпольных экстремистских организаций. Есть незаконные бандгруппы, - генпрокурор // Avesta, 12. 01. 2011. <http://www.avesta.tj/index.php?newsid=7021>, 閲覧日：2011 年 1 月 19 日。